

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2013年2月発行～

# ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291

Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

## No.35

発行日 平成 25 年 2 月 20 日  
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会  
編集 相坂政夫



光は春ですね、皆様いかがお過ごしでしょうか。玉木宏樹が永眠してから早や1年がたちました。皆様のご支援により、なんとか新年を迎えることができ、誠にありがとうございます。

昨年12月14日ラリールでのコンサートは、ヴァイオリン、ハープ、お箏と初めての組み合わせでしたが、美しいハーモニーには多くの方々の賞賛をいただきました。

今年最初のコンサートは3月16日土曜日午後2時から、新宿区角筈ホールで開催致します。皆様お誘い合わせの上ご来場頂ければ幸いです。

今年はNPO法人 純正律音楽研究会が自立して行けるかどうかの年になりそうですが、何とか継続して行く為に努力して行くつもりです。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 「雪先花」春の訪れ

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト  
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表  
水野佐知香

「雪花ニ先ズ」

水仙、梅の花の香りが、あちこちの木々たちも春の準備！空気もすっかり「春」の匂を感じる季節になりました。

北の地方ではまだまだ雪の便りが続き、ニューヨークでも大雪のニュースがとびこみ、1月には私の住む横浜でも20年ぶりの大雪が降り山の上の我が家では、20年以上置いてある「ジムニー」が大活躍でした。

時の流れが速く感じるこの頃ですが、会員の皆様、お風邪などに負けないでお元気でお過ごしでしょうか？

純正律音楽研究会の創設者玉木宏樹氏が昇天されて1年、あっという間に過ぎてしまいました。彼の愛した純正律、彼の残した作品、仲間たち、会員の皆様、私にとって莫大なプレゼントをいただきました。今頃、玉木氏は、しめしめと天から私達に指図をしているように感じます。

事務局長の相坂さんとアルキを任された武内さんは玉木さんのご葬儀のあと、麻布の事務所の引っ越しと後片づけ。トラックを借り、楽譜・CD・書籍・玉木さんの書いた小説等いっぱい、高井戸の新事務所に運び込んで、種わけをし、CD・使わない楽譜などは、洗足学園音楽大学の図書館に寄付したり、奥様は彼の本番着、記念のCDなどを整理し、麻布の契約期間もあり、本当によくおやりになったと思います。

お宝もザクザク！！？？？

宝塚劇場で行われた鳳蘭主演のミュージカルの台本、玉木さんが使われていたのでは？と思われる昔の楽器、玉木さんが書いた小説、高校時代に書かれた大学ノートのメモ、楽譜、CD、レコード等。改めて、とても真摯に何事にも真面目に取り組み、よく勉強をされていた玉木さんを見せられました。普段は、お酒が大好き！大声で話し、自分の意見がはっきりしていて、よく違うことを言うとディスカッションになり、何事にも構わないように見せていて、とても

繊細！！CD、楽譜も、ラベルを付けきちんと整理されていました。

今、考えると、子供が大好き！きれいなハーモニーを小さい頃から身につけてほしいからバイオリン初心者のための入門書を作り、自分の秘密のスケールを紹介したり(革命的音階教本)、あの有名な「森のクマさん」の編曲をして日本に紹介されたり、私の娘(荒井章乃)のこともいつも気にされて、お電話で話すといつも「章乃ちゃんはどうしてる？」と必ず聞かれたものでした。今になって、ご一緒させていただいたレコーディング、楽譜出版のための打ち合わせ、渋谷の喫茶店。いろいろ思い出されます。

水野さん！俺はね！どこで作曲すると思う？飲み屋でね！競馬場でね！俺は、当たるんだよ！ほら！こういう風な仕組みなんだよ！馬券もよくお友達やマネージャーに、頼まれていましたよね！

初めてのレコーディングでは、ミキサー室にビールをケースごとマネージャーに持ってこさせて、レコーディングをしながら飲まれて仕事をされ、まだ高校1年生の章乃にはあまり見せたくない光景でした。

デュオの楽譜の出版もご一緒にさせていただき、一時は8冊になり、もともとあるメロディーの対旋律の素晴らしいこと！また、オペラファンタジー、弦楽四重奏の楽譜も出版されて音楽界に貢献されましたね！

玉木さんがいなくなって1年、私の知らない玉木さんの作品、お宝の楽譜達、CDがまだまだ……。 「勉強してちょうだい！！！」と、ささやかれているようです。

玉木さんの逸話、武勇伝は、芸大時代のご友人、スタジオミュージシャンの仲間たちに伝説になっているようで、同じ下宿に住んでいた方は、家でバイオリンの練習をしているのを一度も聴いたことがない！でも、いつもすごい演奏をしていたよ！ドイツ人の先生からも、勉強をもっとしたらすごいバイオリニストになる！と言われていたのに、山本直純氏に弟子入りして作曲家に！楽器が足りないとすぐに呼ばれ、三味線、ウクレレ等何でもバイオリンで表現してしまい、今では「元祖、おしゃべりバイオリン」として有名で、若い人たちへの影響も大きく貢献されました。

玉木さんのお声、お話されたこと、昨日のこのように思い出されます。この世でお目にかかれないこと、お声が聞こえないこと、もう新しい作品が生まれないこと、お喋りできないこと、じわじわと時間が経つと共に私の心にズ

ーンとポッカリ穴が空いたよう・・・

さあ！気を取り直して新しい年、節分も過ぎました。楽しい年になりますよう天国の玉木さんに見守っていただきながら、純正律音楽研究会の発展に尽くしていきたいと思っております。玉木さんの楽譜も事務所で整理していただいております。今年も様々な玉木作品をご紹介させていただこうと考えています。ぜひ、会員の皆様と共に、純正律を通して健康、世界平和を目指していきたいと思っております。

3月7日、横浜ミナトミライ小ホール、18時30分より「水野佐知香と素敵な仲間たち」横浜文化賞受賞記念コンサートがあります。玉木作品も演奏します。チケットは、私のホームページから購入できます。

水野佐知香ホームページ

[mizunosachika.com/profile.html](http://mizunosachika.com/profile.html)

**ムッシュ黒木の純正律講座 第34時限目  
平均律普及の思想的背景について(23)**

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

しばしカエサルの「人は現実のすべてが見えるわけではなく、多くの人は見たいと思う現実しか見ない」の話を続けてみたい。

今回は、現在、日本で大問題となっている原発と放射能汚染について採上げてみたい。

放射能汚染はどれくらい深刻なのか？果たして現在避難生活をしている人々は元の居住場所に帰ることが出来るようになるのか？これから確実に起こる地震や津波に原発は耐えられるのか？原発を再稼働させることのリスクはどれくらいなのか？原発を動かさなくても電気は足りるのか？100%再生エネルギーに移行した場合に電気料はどうなるのか？例えば、以上のような論点に関して、現在の日本人の意見は二分されていると言って良いだろう。

エネルギー問題については、国民全員が真剣に考えて、議論しなければならないことだが、正直、現在の状況について、私はうんざりしている。とてもまともな議論が起こっているとは思えないのだ。原発推進派にせよ、原発反対派

にせよ、いずれの側も自分たちにとって都合の良い情報しか見ようとしない、その状況にうんざりするのである。

推進派は「電気が足りなくなり停電が起こって人死ぬかもしれない」とか「原発を止めると電気料金があがる」とデーターを並べている。しかしこれらのデーターはあくまでも「原発を推進する」という前提のもと、その主張に沿う形で集められてきたものだという印象を拭えない。その疑いに取り憑かれた反対派は以降どんなデーターを見せられても、「改竄してある」と言って見ようともしない。それどころか、噂に過ぎない情報も拡大解釈し、原発は危険だと喧伝していく。こうなってはまともな議論などは成立する筈もなく、単に相手を罵り合うだけに終始してしまう。

私の理解では、「原発を止めれば停電が起きる」と「原発は安価な発電法である」の2つは嘘である。現在ある原発以外の発電所だけで電力は賄えるし、原子力発電は経費が実は高いのである。それだけでなく、人間のやることに絶対はあり得ない。もし、次に不幸な偶然が重なって事故が起これば、日本社会は2度と立ち直れないほどの打撃を受けるだろう。つまり原発推進は、第二の原発事故と放射能汚染という2つのリスクに直面しているのである。

対して、原発を止めることのリスクは何だろうか？ それは、停電でも電気料金の値上げでもなく、電力会社の倒産に他ならない。原子力発電所などの設備を始め、ウランなどを既に先物買いしており、原発を推進する限りはこれらは資産として計上されるが、そうでなければ大量の「不良債権」に化けてしまうというわけである。多額の借金を抱える会社に未来はない。だからこそ必死で彼らは原発推進を唱えるのである。

もちろん、「電力会社など潰してしまえ！」という声はあるだろう。しかし、これだけ大きな会社を潰してしまうことの経済への影響については議論すべきだろう。そのリスクを負うだけの勇気があるのか？ あるならば潰すのもありだとは思う。

いずれにせよ、現在の日本に欠けているのは、リスク計算という統計学の知見であることは明らかなだ。そしてこれは「見たくないものは見ない」という姿勢を保持していれば、決して発展させることのできない。求められているのは科学の再定義だろう。

## 連続エッセイ【外科医のうたた寝】第30話 『別府大分マラソン』

純正律音楽研究会理事

福田六花（シンガー・ランニング・ドクター）

ランニングを趣味としてマラソン大会に出るようになり15年ほどになります。フルマラソン、ハーフマラソン、トレイルラン、駅伝など毎年30レース前後を走る僕が、1年で一番力を入れて走るのが「別府大分マラソン」です。今年は最速公務員ランナー川内選手と、ロンドン五輪6位入賞の中本選手のデットヒートでテレビで御覧になった方も多いかと思いますが、僕もあのレースを走ってきました。

前日に大分入りし、レースの日は朝から食べまくりです。ご飯2膳、切り餅4ヶ、バナナカステラ、アミノ酸を摂り、スポーツドリンクを1000ml飲んで、12時ジャストに3000人のランナーのひとりとしてスタートしました。

僕のフルマラソン・ベストタイムは昨年の別府大分マラソンの3時間07分51秒。今年の目標は昨年の自分を超越することです。

海沿いの道を息を弾ませて気持ち良く走り続けました。カラダは軽く、どこまでも走っていけそうな感覚です。30キロを過ぎる辺りから、周囲のランナーが失速し始めました。ここで僕は少しペースをあげ、攻めのレースを展開してみました。

このまま走れば自己ベストがみえた37キロの弁天橋を過ぎたあたりから、全身が辛くなってきました。足は攣りそう、心臓はバクバクし、スピードをおとしたい、止ってしまいたい、と云う弱気が込み上げてきました。ここで失速したら、この1年のトレーニングが無駄になります。

「頑張れ、あと少し、自己ベストだ！」と胸の中で何度も繰り返しながら、ひたすら前に進みました。

最後の橋を渡り左に曲がると、ゴールの大分陸上競技場が見えてきます。息を切らしてトラックを駆け抜け、3時間06分36秒でフィニッシュしました。昨年より1分15秒速い自己ベスト記録での完走でした。

この瞬間とてつもなく辛いものが、最高の喜びに変わります。名物の鶏天とラーメンを食べ、大分をあとにしました。

「来年に向けてまた頑張るぞ！！」



追悼イベント「純正律は不滅です」  
(12年10月八丁堀・七針)を終えて

山本耕一郎

玉木さんと出会ったのは1993年頃渋谷ののんべい横町の「シスター」という店だった。玉木さんは新開地、私は須磨でお互い神戸出身である事がわかり、飾らない玉木さんに遠慮無く冗談ばかり言っては怒られていた。

私は当時ラジオ制作の仕事をしており、「きっと知らないです」と番組名を言わなかったが、玉木さんは番組名をズバリ当てたうえ、愛聴して下さっていたのだ。

その後私が東京を離れ数年経った頃、再発された「タイム・パラドックス」を聴いていた。あの玉木さんが、この「玉木宏樹」なのだと知った。さんざん音楽や仕事の話もしていたが、不覚な私は本当に驚いた。私はバンドでドラムをやっていたが、同時に韓国ロック界で活躍する佐藤行衛さんを'97年頃から応援していた。ある時佐藤さんに「玉木さんって知ってますか?」と聞くと「タイム・パラドックスと純正律の玉木さん?勿論知ってる!会いたい!是非会わせて」と言われ、早速連絡を取り一緒に事務所に会いに行った。二人はすぐに意気投合。佐藤さんのインプロヴィゼーションのライブにヴァイオリンで参加してもらったりもした。

その後、驚く程周囲に玉木ファンがいて、ついには囲む会を開いた。場所は鉄道好きが集う人形町の「キハ」。女性が多かったからか、鉄道オタクにはたまらない空間だったからか、玉木さんも御満悦だった。音楽も会話も常に「誰でも楽しめる、誰にでも分かり易い」を考えておられたと思う。荷物整理の際、玉木さんはロックのLPの殆どを佐藤さんに譲られたが、最後にこれだけは聴いておきたいと「QUATERMASS」(英のプログレバンド)をかけた。「オルガンとベース、ドラムだけでこれやで。すごいやろ!」とおっしゃった。

ジャンルに拘らず、良い音楽を愛する玉木さんの影響で、私は広く素直に音楽が聴けるようになった。でも、玉木さんは「あの世」へ行ってしまった。もっとクラシックや純正律の事を教えて貰いたかったのに…。

生前、そして他界後譲り受けた玉木さん作曲編曲の歌謡曲や童謡のレコード。これらをどうするのが良いのか…。当初はレコードを聴くささやかな会を開こ

うと考えていた。が、周囲に相談する内「ピアノのための練習用組曲「山ノ手線」  
「源氏物語幻想」の演奏を加えた会となり、昨秋 10 月八丁堀「七針」で開催と相成  
った。

純正律となると私はお手上げなので斎藤千恵子さん(ピアノ)に指揮を委ねた。  
石川小百合さん(チェロ)尾上祐一さん(自作楽器)川合浩さん(ギター)山本(ドラ  
ム)の 5 人のバンドによる「源氏物語幻想」の葵・花宴の 2 曲が無事完奏(?)できた。  
皆好きな事を言うのに方向性がぶれず、短期間での練習、スケジュールの調整も  
スムーズに進んだのは奇跡的だった。玉木さんを愛するメンバーによる手作り  
のイベントだったから、玉木さんがあの世から力を貸してくれていたのではな  
いかと思うくらいであった。

メインイベントとなった「山ノ手線」は難曲への体当たりの斎藤さんの大迫  
力の演奏で、玉木さんがピアニストへ望むこと、響きの美しさ、複雑なリズムへ  
の対応、演奏のスピード、ダイナミクス、情景の表現力などを感じた(楽譜音痴な  
私は、譜面を眺めて歯ぎしりするばかりだったが、8 駅分の全楽曲を耳にすること  
が出来て嬉しかった)。かけた CD・レコードは「アニマル 1」「クラゲのふにゃに  
ゃ」(本人歌唱+ノコギリ効果音)「トッピンからげて逃げられて」(まんが日本昔  
ばなし)「カッパのクイクォクァ」(みんなのうた。本人歌唱箇所あり)など約 30 曲  
で、玉木さんが出演した映画「続・男はつらいよ」も紹介した。今、どれを聴いても  
楽しいし、古くならないと思う。

レコードをかけている間は写真(0~67 歳迄)を投影していたが、この写真がも  
のすごく評判が良かった。私の拙く覚束ない司会進行も救ってもらった。奥様の  
とみ子様、カメラマンの清水啓二様に大変なお力添え賜りました事、この場をお  
借りし厚く御礼申し上げます。

玉木さんの好きな集いになったと思う。ご本人がいたら…と思うと本当に寂  
しい。





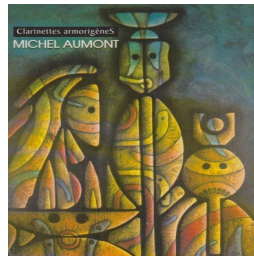
CD レビュー純正茶寮  
< Michel Aumont >  
純正律音楽研究会理事 黒木朋興

Clarinettes Armorigènes

Michel Aumont

Lable : An Naer Produktion

ASIN : B00005QAYP



クラリネットの多重録音による作品集。

木管楽器の音が好きだ。その中でも、サクスのキラキラした音よりも、クラリネットやバスーンなどのしっとりとした音が好きだ。

ロックの愛好者である私が、何故このような木管の響きに魅了されたかと言えば、去年紹介した **Univers Zero** の影響であった。最初は狂ったような変拍子と攻撃的な音に魅了された私が、ロックなのにバスーンやクラリネットがメロディを奏でるその音楽に決してシンセではない響きを感じ取ったのは聞き始めて間もなくのことであった。シンセではない響き、すなわちそれは平均律ではない響きということだ。

クラリ奏者は唇とリードを巧みに操って微妙に音程を調整する。このアルバムでも、そのような繊細な木管の調べが聞けるのは嬉しい。もちろん、多重録音によるハモリも美しい。

しかし、特筆すべきは、この音楽がブルターニュの伝統音楽に基づきつつも、コンピューターによる最新技術を積極的に取り入れている点であろう。古きものが美しいのは、現状に合わせて姿を変える術を知っているからだ。

サウンドエンジニアは、前に紹介したブルターニュのアコーディオン／バンドネオン奏者のフィリップ・オリヴィエである。

## 【偶然のみちびき】

### DSD 続編

翻訳家・きき酒師 川合 浩

ひびきジャーナル前号では、一昨年は私にとって1ビットレコーディング元年と書いた。そして、続く年の昨年は、1ビット音源を楽しむ年になった様だ。この絡みでDSD 試聴会やマルチチャンネル講座、USB DSD DAC の試聴会などなど、いろいろ参加できたと思っている。また、それらを通じて知り合った方々も貴重だ。

ただ、前号でも書いたが、1ビットに関する情報が依然少ない様に感じる。ネットでの情報も少ない。まあ、この少なさが、検索に時間かをかける事にもなり、思いがけなくDSD 試聴会を発見したりと、情報僅少の副産物もあるのだが。

さて色々な会に参加してきて、感じた事は、いわゆるCD音源に代表されるPCM音源と、SACDに代表される1ビットDSD音源の違いが、まだ十分に理解されていないのではないかと懸念する様になった。PCMについては、CDの場合そのサンプリング周波数は、ご存知の様に44.1kHzで、昨今のハイレゾ、高音質音源の喧伝で、サンプリング周波数のより高い96kHzや192kHzの音源も聴ける様になり、その良さも認知されてきていると思う。簡単に言うと、サンプリング周波数が上がれば音質も向上する。そして、DSDはと言えば、そのサンプリング周波数は、2.8MHzまたは5.6MHzである。細かな数値ははしょって記してみたが、要するにサンプリング周波数だけを見ると、DSDはCDの64倍または128倍という事である。で、それ程高いサンプリング周波数だからDSDの方がCDより格段に音質がいいはずだと、サンプリング周波数だけを見て、思っている方が少なくない様に思うに至った。

ご存知の方にはうっとうしく思われる事も承知の上で、PCMとDSDの違いを私なりに書きたいと思う。

よく説明されるのは、音は波である。

その波の高さを連続的に棒グラフの様に記録する事で、波の変化を表現する。

つまりサンプリングのタイミングで、その時の波の状態を連続的に記録しているのが、PCM。

とまあ極めて簡単に敢えて書かせてもらおう。

次は、DSD についてである。

これは、私の創作である。

音は波である。

波は、高くなったり、低くなったりと変化し、また同じの時もあるだろう。

この高くなったり、低くなったりの変化を、記録するのが、DSD。

つまり、PCM は波の「状態」を記録し、DSD は波の「変化」を記録する。

この、状態を記録するか、変化を記録するかが、大きな違いだ。

以前、1 ビットレコーディングは編集が不可能とも言われていた。これは、変化を記録しているから、編集で切った時に、切ったところにはその時の状態が分からないからなのだ。

飛躍している様で、ちょっと心配だが、この記録する対象が状態または変化であると言うことで、PCM と DSD では、全く違う。

超が付くぐらいに簡単に書かせてもらったが、状態の記録か、変化の記録か、この差をまずは理解して頂きたいと思う。

補足だが、私にとって長らく疑問だったのが、波の変化が高、低、同と 3 値なのに、それをどうやって 2 値の 1 ビットで表現しているかだ。ビットの組み合わせで表現しているのかなと考え始めていた頃、この点を質問できる機会があり、メーカーの方に聞いてみた。すると、同じの時は、高低とし、上げて下げれば結果同じとのこと。やはり、組み合わせだったのだ。まあ、音の波で、しかも DSD のサンプリング周波数で、同じと言う事は実際にはまず無さそうだが。

最近、音源再生機器をつなぎ替えたりして、音を試聴してみて、その試聴用音源をどうするかというのが悩みだったが、結局、純正律音源がいーらしいというのが分かってきた。私がいつも聴いている玉木さん演奏もので、再生環境が整っていると、出だしの音からリラックス状態に入っていける様だ。同じ音源でも、別の機器構成だと、聴いてはいるのだが、何か違う様で、思った程リラックスしていない自分に気付く。

純正律の CD が、本当はレコード版があればそれを聴きたいが、以前雑誌「壮快」の付録になっていた純正律名曲集の CD で、これが私の愛聴盤。この演奏時間は短いので、特に午睡目的には最適。既に充分聴き慣れてきていて、1 曲目でリラックス状態に入り、2 曲目で睡眠に入り、そして再生終了の 1、2 分

前になんと覚醒するという感じ。これで仮眠時間が15分程。医学的にもよいのではないかとひそかに思っている。

そして、心地よい音楽を心地よく聴ける時は、時間の経つのが早く感じる。ストレスが無いのだろう。

さて、私にとって、一昨年、昨年とDSDがらみの年。で今年はどうなるか？今年、私にとってアナログ回帰の年になると思う今日この頃です。

**【純正律こそが体に良い調律である】  
音の後進国日本より2**

玉木宏樹遺作

## 2. ピアノの音階は狂っている

ピアノの音階は狂っている！などというと実に挑戦的な言葉だが、正確に言い直すとピアノの音階は狂わせてあるのだ。

ナニナニ、そんなことを言うと調律師が気を悪くして起こりだすんじゃないだろうか……。ご心配無用。調律師はそんなことは先刻百も承知。彼らの商売はいかにうまくピアノの調律を狂わせるか競い合うことになってなりたっているのだから。

ヴァイオリンの調弦は純粹に美しい完全5度を「自分の耳」でたしかめながらやるが、それにくらべ、ピアノの調律はまず純粹に美しい完全5度を「自分の耳」でつくるまでは同じなのだけど、ここからとんでもない作業が待ち受けている。ピアノの完全5度は完全ではなく不完全なのだ。ほんの少しだけ5度上の音を低くし、不協和なうなり、つまりビートがでるように再調整するのだ。

なぜそうするのか、結論から言うと、そうしなければオクターブを単純に12等分することができないからである。平均律では、すべての完全5度の音を百分の二せまくする。そうすることによって、0.8秒に一回、ワンワンといううなりが生じるのである。人間の耳というのは実はこんな微妙な狂いの方をよく認識するのである。

「ピアノと平均律の謎」(調律師が見た音の世界)白掲社刊という本があり、そこに次のような前文がある。

ピアノ調律の初心者は、まず何をおいても「加減を設定」にしなければならないと教えられる。これは、ピアノ中央のCのエリアで主に5度、4度、長3度といったある一定の音程を調律しなければならない。ということの意味する。それぞれがほんの少しずつ調子はずれになるようにするのである。すでに150年ほどにわたってピアノ(ピアノは250年くらい前にできた)に使われてきた平均律という調律システムでは、どのくらい調子はずれにすることが「決まり」になっているのだろうか？ほかの楽器では、こんな調律のしかたはしないですむ.....。

ここには二つの重要なことが記されている。ひとつは、ピアノは調子はずれに調律するという事、それが平均律であるということなのである。もうひとつ重要なことは平均律はたかが150年前からしか使われていないということだ。ではピアノが作られてから百年のあいだはどういう調律が使われていたのだろうか。決して純正律ではない。主に「中間音律」という方法が使われていた。これは純正律と平均律との間だと言っても構わないだろう。しかし、平均律と中間音律には決定的な違いがある。それは長3度つまり「ド」に対する「ミ」の高さだ。平均律の「ミ」はあまりにも高すぎ、非常に不快なうなりを生じる。

大衆資本主義にとって、単純に平均化した調律しやすい狂いは、ピアノの大量生産にとって最大の武器になった。悪貨は良貨を駆逐するのとえ通り、狂って濁った平均律の「ドミソ」が、本来の天国的に美しい純正律の「ドミソ」を追放してしまったのだ。

だいたい、人間の耳はオクターブの間を12の音しか分からないほど出来は悪くない。色彩にしても何万色も使い分けているのだから。

世の中には、惑星の法則にしたがった音楽とか、潮の満ち干をもとにしたとか、樹液の流れを音楽にしたとかいう、いわゆる「自然物」がたくさんあるが、それを不自然で人工的な「平均律」で作るとするのは如何なものか.....。

平均律が市民権を得たのはたかだか150年のことだ。ということは、バッハ、モーツァルト、ベートーベン、シューベルト、シューマン、ショパン、リスト、ブラームス、チャイコフスキー等など前期ロマン派の作曲家すべてが平均律ではなかったということになる。特にモーツァルトなんかは自分の曲を平均律で弾く奴がいたら殺してやるとまで言っているくらいである。

なかには、バッハ作曲「平均律クラヴィア曲集」というのがあるではないかと指摘する人もいるかも知れない。一見スルドそう……。しかし事實はまったく違う。

昔のNHKの音楽番組の解説では、バッハは当時発明された12の半音すべての長短の調二十四をたった一つの調律で弾ける「平均律」の素晴らしさを世に広めるために作曲した、などともっともらしく解説したりしていたが、とんでもない嘘と事実誤認であり、バッハは決して「平均律」のために作曲したのではない。

だいいち、バッハ時代には平均律こそが「絵に書いた餅」状態で、全く、実用にはなっていなかった。もし成っていたとしても、頑迷固陋の頑固じじいがそんな新しいものに飛びつくはずもない。バッハが作曲したあのクラヴィア曲集は、ドイツ語では「Das Wohltemperierre」で、英語表記でも「The Well Temperd」直訳すれば「よく調律された」という意味でしかない。もし本当に平均律用にしたのなら「Equal Temperd」でなければならない。

では、そのよく調律されたという調律法とはなんだったのか、多分それは、ヴェルクマイスター調律ではなかったかと考えられている。この件については、平島達司著「ゼロビートの再発見 東京音楽社」に詳しい分析が紹介されている。

では、いつの時代により調律が平均律のことだと言われるようになったのかというと、19世紀なかごろの音楽学者ヘルムホルツの嘘から始まったという説が多い。

どうやら、ヘルムホルツは平均律搭載による大量生産を目論んだピアノメーカーから鼻薬をかがされたらしい。

だいたい、考えてもみてほしい。ピアニストは自分で調律しないのは変じゃないだろうか？ そのくせ、ヴァイオリニストとアンサンブルしたときに、ヴァイオリンの音程が悪いなどと、ホザくんじゃない！と個人的に怒ってみたりして……。

みなさんの知らないことをお教えしよう。平均律以前はピアニストや作曲家は自分で調律していたのだ。だからかなり個人の好みの調律ができたのである。それに比べ、今のピアニストは自分で調律をしないのだから、音程に対して鈍感で無責任な人が多い。

「音の後進国日本」1998年著

今後のスケジュール

2013年3月16日土曜日 13時30分開場 14時開演

**純正律音楽【第二回玉木宏樹メモリアルコンサート】**

会場：【角筈区民ホール】(地下鉄 大江戸線「都庁前」A5出口より徒歩10分)  
(京王線「初台駅」より徒歩10分)

東京都新宿区西新宿四丁目33番7号 TEL03-3377-1372

出演：水野佐知香(ヴァイオリン)、三宅美子(ハープ)、松本望(ピアノ)、  
千葉純子(ヴァイオリン)、恵谷真紀子(ヴィオラ)、井上雅代(チェロ)

入場料：3,500円(会員特別価格3,000円)



おたより募集!

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

平成 25 年 2 月 20 日 発行責任者： NPO 法人 純正律音楽研究会

編集： 相坂政夫